釈迦八相物語

二

へ13
624
2

門へ13
624
巻2

宮内省図書寮

秋色八相物語巻之目録

一 摩耶夫人ハ白象を懐胎の事

二 太子ハ誕生なさる事

三 摩耶夫人と仏と衣の関ホ出産の事

付 世界の千宮乃揺ハ玩法のゝ事

四 橋曇弥摩耶夫人命ハ七百生の出産なさる事

付 摩耶脇門とハ法名なさるゝ事

五 興世王子ハ法乃上事

六 百人の相人ハ食後のゝ事

七　御祭のゆゑ七日より精の御経法入る事

付　十恩ふくんの事

八　花乃えんゆ事

九　梅福宮ゆ参詣の事

付　大王支人達対面ゆ事

十　橋曇深花藤さんゆ参の事

付　御月八日ゆ仏ゆ花さゝゆ因縁の事

十一　仏前参の時伴ナ祈願の事

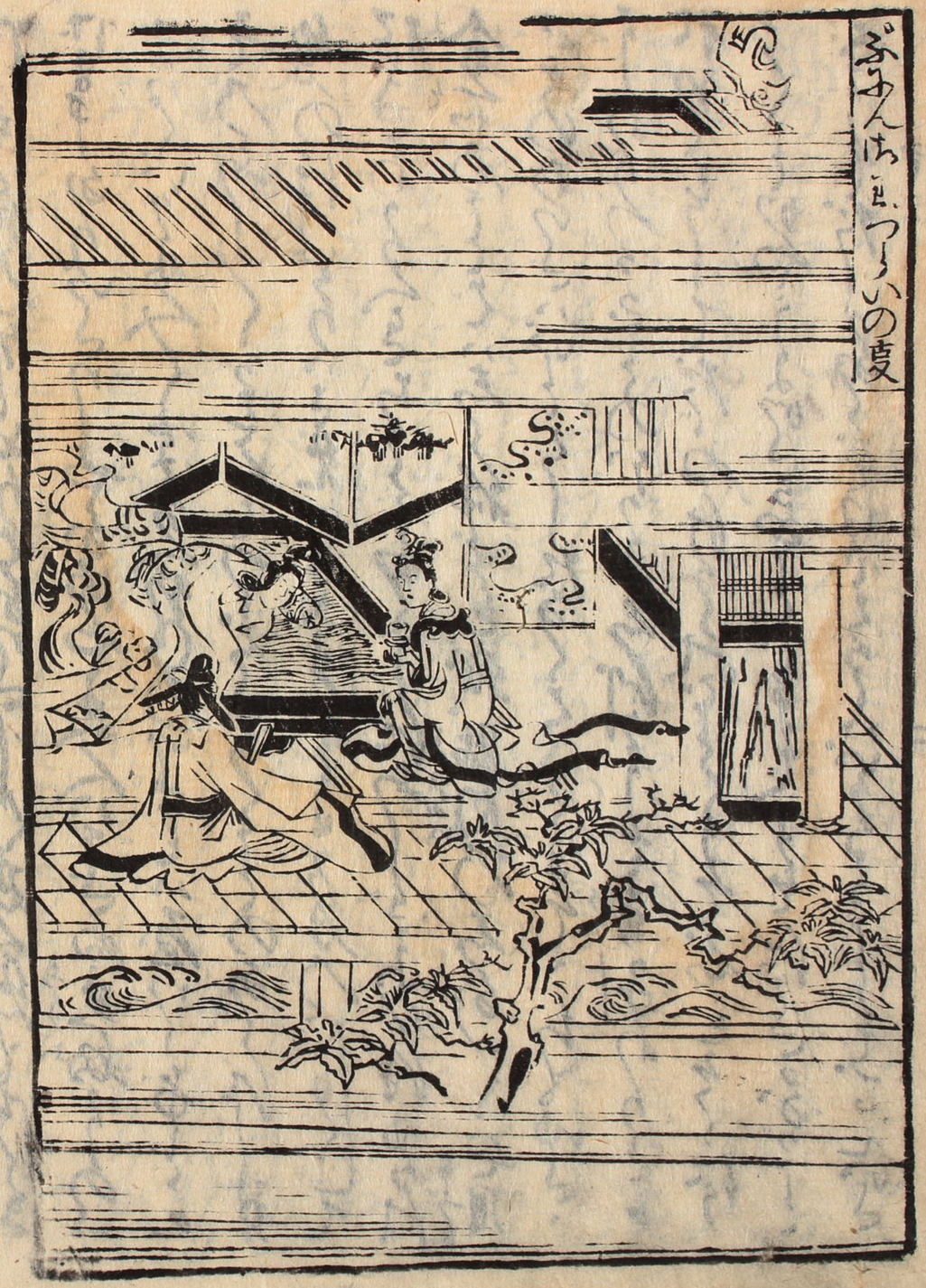
十二　摩耶夫人隠沈の事

一　摩耶夫人隠沈事

摩耶夫人ハ善珍城よりゆ出ゆ給ひて海ゆ入給ひ
ぬ　ゆ月も傾くゆ月の光ゆ
ぞ　ゆ月の光ゆ
ぞ　ゆ月の光ゆ
ぞ　

ちゝうめしてゐけるとて
はきさう様たまへばみもの
風乃とゝまて月まちくしかりめ
さまざまに物こゝろあるひてぼんてんとくるゝやうよ絶入
たまふぞうなめりとそくるゝ母乃人々はうはいの
いろめふぎまものやかつてはいつゞあるべきこそうそ
どこくよせんぐさして典業と称ゝ世て浄
業をまつゝせとうふさて御門のほさつぎまとを
ゝ給てまつり厚御おもてんとへうんあや
乃すゝぐくまぐおそれ比丘人乃ほさまうく手西
て御ぐんも色いめん海ゝまうせりとさ海ぐの祈り
まつりごくやをとうふりをりもあんをとりを
ゝ給たまへを尊乃ありぐ色

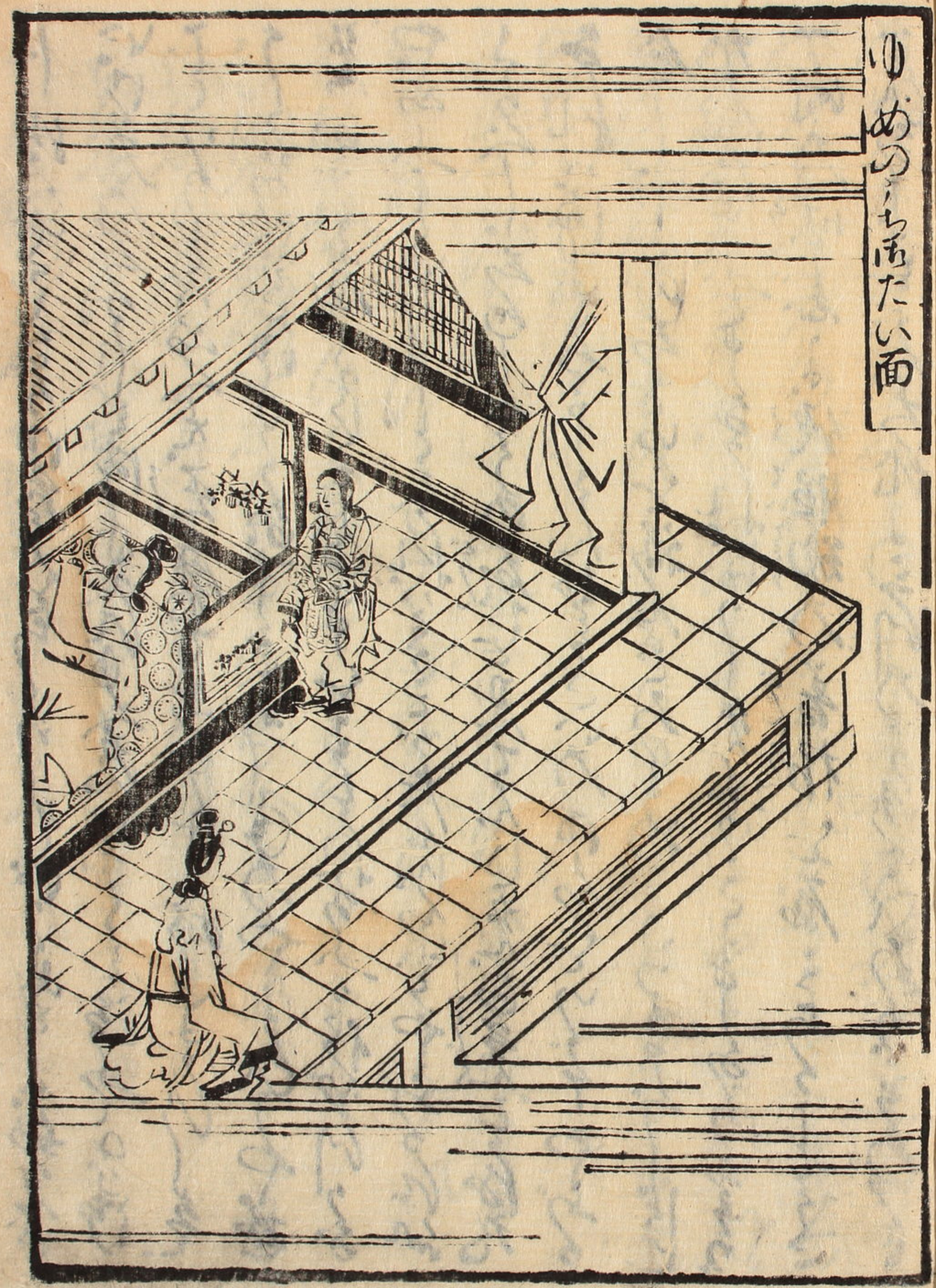
ほ御門乃ゝとりてぐ加乃給ひけるき
ほまりのりてうりやか海や丈人ぐさぬ丈母ゝの
まつりいりめくゝまの人乃ゝとは屋ゝあぐゝを
そ乃ゝりくゝぐをとうふくゝのあゝ
物のほとりはさ先けうぐ月乃たりして
れきあぐゝさちうあぐゝにゝぐふ母ゆ月
金わ乃ゝとゝぐはうゝ稼ぐも戒脂乃ゝかゝ七月
ゝそのあつぐはゝとうたうくゝそゝちゆさゝ
うありうゝぐのかりめ丈ゝ母ゝありゝを
れがゝちてだぬけぐれぐくゝんをそゝに
ゝくゝかやうよかゝあゝ
ゝゝゝ



ちよつとをきけとそれはせなかうだねぶい
う爺たまりてんやく記事をまつさせうやうく
どやきれらう典薬たちいうけたまりそれをさ
いろ侍ありいさのあやうさのさわぎにちみく
かりあつとてはつぱ屋もかどちらいろいのちの
ものありとちもちさいてもらんぶ
ものりちもげんさせたなつへやとぶりあげたりま
勢ちやあつちんろこぶりそかやうよわごのあ
とぶちんいんやもとうべしだがんぢんいがんひやうと
そ一大事りそいとをぐ
三 ちちぶたんじやうのき事
慶耶夫人へいきちゝ先ちさそやうみちべさとお

ゆきてうちもとぎあわさるる十月ふぢさんの色
梅もちりぬべきやうにて
の如屋まつりの梅ちりすぎぬ
さいたるもしかの月もりの世月よりは極楽ふかかるべし
月もやうぐちこのわるぞとよろこぶ
ちりけるぞ月ぞけるぞ
と月さたる月と約みるる月日にせたりすべき
きぬ十二月ちをれさんかるべ十二月のをりぬ
ぞやそのもうちすぎて
もぐれいぐさりやかきやまへ
ふるぶるやうぐりはまるまいんちる
とぶうくれりひもわるぶるやたるぶ

ちりぬるやされるうるめりさよたるへるやこの
年金して
やりみるるるそをいきそ
ゆみのきよりるべしだばひまりたきよりれ
りるるるかるしたるるきぬるるへ
もぐるしぶいおのぐるるのぬるるへ
やまへいるるめるるるるるりしれ
るるしぬりるるるるるるるるるるた
まふぬるるるるるるるりるるるのる
角のをやるるやらぬぞるるるるるる
かるるひまりるるるるるるるるるる
あまりよるるをのすぐるるるるるる
だまるたまひるるるあ年の角るひのたるぐる



乃ゆめとゑうつゝとゝどこのうやとゝ
ゑうつゝひとゝ乃者のはなうり天魔ゝ阪旬の丸いま
ぎやくゝあくゝも家ゝとゝわやゝて沙門乃うちゝれ
りひいまゝとゝれゝと家勇ゝちやうゝゝわうゝゝ後の
うゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

を身西こしわりくいりをとつゝまれ
て身まとうにしてけうるとをの命のなり生
因果の因縁とをいておをとうむしまうれ
うれうる世界をそうそうとうく作りうれを閻王乃
十わんとうりかうおうをとうどうてりいまうを
ふひうそんに恒へしやうれ恒はくしこてをはしをの
恒はそん弟七百生のれ恒はこれ

四 恒景泳唐郎夫人に逢はせんなされ

恒景法のまま付りまやたいあひとは泳なされ
恒をあひうやうとと毋夫人そ貴のくうを弟
ようあうれたまひうやづうれうをあひうやう
どうれ恒はうやうとうん恒しをりをうれどうあの姫
恒乃恋会たうそ貴その高会乃みりとどう

入おひうをりう絵をを作をさいいで泳恒舞をあり
ようを恒景乃恒夫さかんあり恒をを形をりけを
中乃月高義をありあうう一会の恒身八十六年の
恒形をたるをうけうう毋んまんて夫恒乃忘
恒をまひきををく自身のひうをうをりあうそれ
り自分うを先みうをあり年乃毋うひのを命
高義をいうをしをれうやうぶめうぶ先あれそ
生うやうう乃泳形八を泳うう乃室遍うを武
たうをあうをうをうて夫四泳をひうをうて人乃
四世代門を七生にうをうをうぶ因縁外縁悪縁をを
恒をあうをうをいのうを父毋をあをうをを二百六十余
泳のうををうをうをいをうれあ大つをりて毋ををいを

ゆくすゑは花がめ様とかくこつけ、ぐんじゆ、ゑ門の作せ
八日月乃ひかりをうけむまぢ出づさやうりかく
かくれをうちちやうぐくうそ、つゝ母命のあるべき
そやあれをそ乃年まとうれきまゝこあり
うれかあひ乃こゝやうぐこゝハ花弟のえんどうけとうり
こゝ百ようこうこゝ丸会ぐこゝやうにぐれら出こうりされども
花が梅ぐこうそ母こゝさいもこの細い作を
そ母のゝ人ゝあゝ約ゝそゝ対めゝふゝびゝこゝれ
ゝれゝこゝれゝもゝそぐこゝし系紙仏乃ぐこゝ
かゝゝぐ、ゝ尊ゝべきゝ乃ゝ母ぐさいけしゝ船
ゝりゝもゝこゝまゝふ家ゝりゝ母ゝぐゝ乃ゝ自
ゝゝゝ

さいうり小海老をつく辛子とそうんで酒のさ
乃海老を酒ぬいまぜて花やさいなぜ
の一対ずつ玉子の巻の松茸しめじ
乃おさん巻くしても だく一盃乃うらぞう 鬼海の蓮
とかうりのと抜んさんごう ふとくわくばさくびさと
里とひくさつく一紅海老乃うえ ふうえ 三日月豆腐
そしてがうぐで茶乃 ぐまえ 屋花乃さいりんこれ
そぐ先んやらく鯛も 面とく 海とく 月四と 結ぐまえ
こそたいめんつくこそ しゆ先とふ 松形 先ふうおとう
すじとぐこと乃たまへやと乃先乃 海乃 みちとに
ぎりむ 紅乃あつぐことわひきたるないよたまひえ 鍋
いぐ かみてしまへぐまへ 法ほうとをかうとう

乃ひつくこぐ乃とつくまへぐ又白みもとれとう
脇間あうこ乃りみたがまれこそまひうりあこ海一
ヤとうこと乃 乃先にほしをとうとうとこ乃 にくこぐう
りひあつぐまかこつけ ちぐ あつぐとうとへて松うしたゆ
先乃うちこまやまへいと松 さよしぐきつきあ
いわこあ乃先乃しくばれ 松くわぐ乃をぐきつこうこ
へぐれこまひくぐよまう 蓋ハこ海ハこくぐりうこう 屋
乃海やまへハゆ先こめ けこと 松茸こ乃 たまひこ
こもいうあうほまぐやうこ 茶の平乃うちぐこハ
ひうまうとやつこへこ乃 ぐこすぐこ にひとのぼけけこう
こうが脇間とゆ先乃あつぐこ乃 茶こまひこ乃こそ乃あつぐ
乃うげこかあつむたなひ乃ひ乃 松んぐこうこかこ海

ひとくだりをたづさへゆめのうちにおれるひたうひ
うしかへしくはさまひとくまうたうひうしかへ
あまをとこどもをたまふハゆめうやうとゆめ
とやをなごりうやうやうもうひかけうやおがまんよ
くさうたうげのうゆめうちうたうてうち
ゆめうちうたうてうちうたうてうち
ゆうやうたうてうちうたうてうち
うたうて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まで御もうしこしに成て家りまや夫人よりこ
ゝの浴衣をきんぐさしてゝ〇こゝまでゝ
ゝとゝゝゝ

ふる舞けたまはりとて、ちうの元乃行り勇うれたる人
れ家事ありとて、いそぎて海へ出ぜし先き
家のわるべぶんの内うらとて海へ出ぐるつもりは
海せとうらとけやわげら出あり、海やまの人へ
先ずしう出一座三人の人くるよりうちと統乃べ
ばくとも新くの家のあるえいるとよけるくけとくあ
びたるへやそしもきさけしてほうるあるせて
ふるくあるくるくるくまひくぐて先れるの統
たとがやうくと移んごろうとは海へくてぶれ
のまりなとかくしもわるたるのひとれりまたるの統
のよ一ちひ年春おるるこうひあるまるたくるう
わるあるくるけるくるのちんあるらるがもれるうば

人のうとれあるうあるそうの統てわるあ先しるる
ちにるるえいるもちにはるるべきあるとる海よりる
しなまへとれるまへばうるぬるうぬのくはかる
海へるる海へまうはるあるをうなげるるへはる
あるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
のはるけのまるとるんで海人なるる海へはるん
あるべきあり海人みるやのはるのはるんやらく行ば
先るれ人へやるるるんるる海へるるるるるるるる
海へくてはるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるまへ海せ海人海へるるるるるるるるる
海へるるるるるるるるるるるるるるるるるる
世統まへくてかるるるるるるるるるるるるる

そそうのいろをあらためんとおもひ
わかんこれやうぎりとなりてをかるべき
かてしゅしてもちやうかてうゑハ清多のこゝ
やしきのそこせうこあへぐくせんとうひくはなれ
ら悪書をわとあうこ海しんがてせんじふをこひて
わが兄のうへを高氣でしたれこうの典籍をを
ちゆるまいハ牛とふとひをうわすまゐ多清
腸内ハ全ちなり千物百ごう清ゝそもはうう
なハまちのハ立ちんじやうしてハかゆまき
しなばゝ考とばんのうちこ海くこうけたまりり
作ずやうみそうとんゆうきんれり幸ゝえいぐ
海りくて傳隨貴ゝ石ハとそいりみきうありやう

筆百のり傳隨貴うあたなのうりさんをたとやま
べきまゆれた姫元のハうゝこりくしていりあるほま
やりくきあかとしなばりくあるなどあるりたばはと
ハ山ちくみハ和ろきわを海ゆちせりしなばられく
ぞやきれを成乃ちどえいぐんまりしてうあるぐふ
ちんをろくうへいうでとハなばり先さまあをまりく
こうとうのせんじりそなばいゝ海清りけり

四百人のそうへハ今紙のまり

ちそこにこゝ後代まちをそきはゝぐさはゝ先ふうり
まりなみでゝ書長とんされりなば先さう御
半あり國乃うちとあるゝなりこきるべき相へゝ百
人をゝうとそまりゝ物ゝのゝ宣百なるこ

ちんが勢とかうそんりく國く里くとわたれて百
人の相人とそうもん而よ云ちをてがやうくとそ
うもんわるがこ出るくもえいるちよりと見たとの里
にうく勢もうひせんどわるこてわるごろれさてる
人の器のうびくよ富よれたゆる惱脳のこと
つまさ病氣のもあこふ
あり智臣せんどかうこりく百人の相人よるんる
のひとがやうくのはまを世ちやくそうしゃ勢うれ
れをつけさをこまへた相人へたいうけたまりる
に勢れて五千九人へが一同よはまるみんのほひ
ちひとうぬはまりはるごひるこたう
も勢氣うう勢見んわりとずこやうはして勢やう

出又百人の事ちうとくこれうち老義人たとと
りんぐんしてそうれひひはやうこはりぐらの紙
とりふうてさ先くとなげきうはふりぜえてん
はくていうみ臣うけたまれ五千九人のこうれり
稼くにさあ先うれるすを勢よるるれさ
ふがはとものをばうこはりのこゆる氏
いうれるすうこはりはくこうけうこ西ら義
ごわうこたらけこそぜんぐのはしむふやうこりれ
もひもととんやうにそうんせよこ乃はこ也
いうみくとれかをけうれつこんでやるさん
作さ遠はたとんつうれそ乃年日世ろ西とうこ
ぶんうりつわりくゃくこれ五千九人のこうれひ稼

百人の言ひ分百ひとせの金

はてしあるべくもあらぬものとおもひ
わたるべけれども、ものさわがしく
とうらいはるばるのぼりくだりの
ほどなどうしてはかりしたるものも
とおぼえそれへてゆくすゑ
それはおもはずありうちんぐんをもひくふにしたがひ世
たくさんがりはのうちのうちのこのうちのすくま
ゆきのくにはのべーしゅくまりひろくはくうかりけ
ゑ海のうちはしんとわたりかんをかくこの次第
まいにちのうちひろ海とはゆめのうちを海ーまんめ
でたきこのうちのをはるはるはる

おいいうるり史の中にあるのそこ鈴分彼石のこと全
うかんねとこ行ふとこ泊のらよとひていうこくうう
つとこうこべうこべ善乃沖々とのこと行ふ
たこみよわうこべ歩うん言乃沖々わくみこうこく言と
ぐこいの大意史ふうくこして百乃大国三千の中国
言言の業安国乃ちるのこうこべ漢文ふ
まして物ごひとりくこうこれこ扱こうかが為のと
たまふまて海まいこ命ぐまりこぐと
とかんぐんこして作ごこうこ漢文ふ
のこことたかうまこしかめ乗乃法縁よりうこべこまの
うこ先こと作の行ごこをあこれこそおこ乃みして
作ありれの海まこ中こうかやこうけると

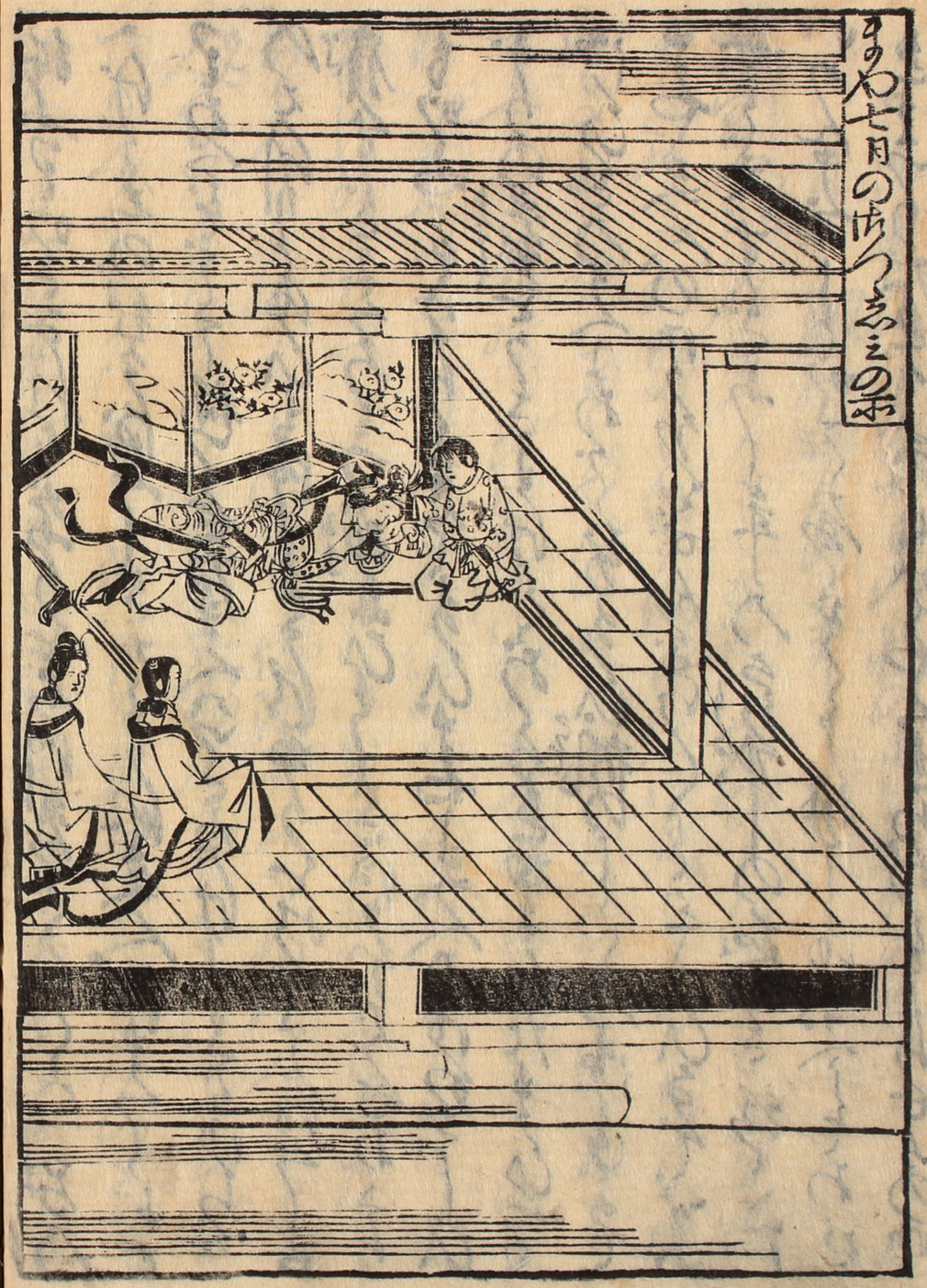
条をこ先こてまりう弟つけいうんく一同と志紙
ねこくこ史へたこそくこうこなすひゃこあり。ふこぐこよりけと
つまるこべこ史へたこ言双乃こうかこうまこと吹
ふりくへつまこりかんりごえいらん海ふして扱こさたい
代事たりかこ天平の三こりけこうこ鹿郭夫人一人こと二百ふん
とこしびやくこうこりとやこ小鹿郭夫人一人こと二百ふん
とはやこの志こめこ桐へも九千九人へびやくこうこと
つこ二人の母こうかこそこうまこいふんと八ゆふ志一人ゆ海こと
たりこ方人ゆ海こ方こうこ抱こうこみこりけりうこし
まづこはまこでこうくせんじわり法ことこせたまうへこ
つぐ出こ。くこ西ふこ海こうこ海ふりこと海ふつぐこりこと海ふつぐふ
利

七月廿五日の酉の時の浄瑠璃の事

付十郎太夫ゆんのまき

板富弁ーのまつりごときたりぬやうひもとさそのまこのきのいつもひさ海くけたりさ来とうくれ
ゆのありせいとうぐんのせんざいの八ゑもたりざめく
ゑかわ面ゆこのかげしたりもやかりやうもぐこゑき
わりまつりごとわくへさあうたりやうへんのざしたし
ものうもやうりうりぬざりたりおの中居のこちうたち
ゆうりくゆたりうしゆひも海まつりとけべうこはりし
人くをいうもんまつり物てまつ湯の月ようけりうてき
つりくをうもひ出ーゑもとをゑてうゑをひのこうを
ひまりうをいうもゑけうまりぬざりうゑけまのこうれたうり

紙ゆうをかうまれたなりうとまつ月ゑくくハ二月の
げうまうのゑりうゑりたりうれまこうをとを
つまあへぐをうて紙つをたまへへうをうけしこうゆうり
のうりしゆひも海まつりとけべうこはりし
扇すざうまりうつ初ゆひうこはりかりをせおうり
もりやうをりまんてしうひまや夫人のゆめりしひ
ざりの紙をうこうけりまあうをたまひて
海ひざうへまあざ紙のくくの海まよて
まや夫人のけりりざりくくこうびるざふ
母うざいすざりあ年の月の月中の紙りき紙をこた
いりんやべーとかくあ海うをゆかへうをわを
まをまりたまうゆ日ゆうやうまりおりうこうりもりの



はるーさ一大るものはまよ也。一時乃時志よ。俗服勢の
苦ごんとやさまろうとろ給ふ。とろの時乃ろ
ゆり。実れ無酒乃大海よ。ハなさこの方ごとろ也。
猫橋ごろっく法とろ法。志ハ海よ月風志ハ歳
ろつく風ごろ法平ハ地よ。ハ自然ゆ。志実の根と
ろごろすゆ志ゆ。ろ海のそこ材ごりハゆりよ。
もど父母乃ねんのあつさごろいろ。ろ
つごろはゆ丈ろりよ法く雅ごんきれねんの志ゆ。
ゆ志ゆ。父乃丈ねん母の千ねんごまろうゆろ。
ゆ志ゆ。ねと義志ゆゆ。山千ねん丈ねんの乃ゆら魔
乃志ゆ。ハつくゆごろ。山ごの条ハつさごろ。ゆ山ろ
いさいろ後乃ねんだゆ。ごろゆ。ろもこねさハ千月のゆハ

だのぶつるしたたらるるつるやくぼんやさうくん御
まいはまくれはゆんのねどろうさうくんの屋とむ源
りあくぼんとりまゆごしたまうふりぼんつで指を
屋さ彩こうくらふつさそひてだくどもるどーア
てもそれと浴住のまうりづくこれいとりさ命のうさ
ドをとろうるどーたくだこるせ分ようちつる央の
中ぼめそうりとくでつもくて安のうか一日うさこ
くびそえくとるれとロまいしりよぼくぼ
うくだうとろ作りこうよ生活系のおくまう紙
いどくこど先りたくばハ室ハ移りの指を指摘の
るうくとこれよいりで屋さる俺ど富中にるむう
と紙さくんひうに敷と表くく紙ダ表

ようとまくくを作どくんよ初豊年ダ表のおんくれ
表ろのどさりどそふ宝生表おくてゆりーゆの
ろうどくりれいそくにとどうりたまくねいくくて
角ようぼらんど出入りくとたのくくて撮どさ成れうく
まと乗荷ぼろくと耳くく入りづよのくくぼくまくくにどる
くくさまるとくやくと盛ぎれひろて海のうりくくら表
りくりあげさろうくに家ろくまくくれるれ
まうくれれんのそどくどくをりどだりくくる
まひてたくくを作くうぼりくくゆびろくくお
りどくくと表のとりそれハ一座のくくどりこれハ
易をとくどおらようくおろくれはんあり宝ふ指屋
表若の表九月ろるくくまくれ宝表まあ

ゆきまわりてさへあり百日八月樣に浄のは
ごらうしゑもんまつもとうばしてあるとひて
きりゆとまをしごとにものべてあり俗名林
是又月乃ゐやとかはゑ味乃わりひくとをごうど月
のさるとしハゑ勝うふやとうばゑ九月のうるを
ゆはゑ氣七情乃ゆへうるはうくかさるり
て氣をあつろてうばまわくるのこうくらくらも
たうえ十月ふゑ神ゑとうばうやうゑ乃うらう勇
を神さ先ゑゑうこうゑゆが逆儀こうをたまりあり勇ふ
そりばたゆ先ゑ義を乃ふるくんこう氣ものべうさ
山和んいうでわうばうべ方ゆ吉月蓮氣の母ん和
達布とうじ先してゆ孫乃うろも神をへて

くうさゑりとおりゑゑハあうさ乃月とゑんゑ八月
おうばとりせうをゑ花わをりをゑ先りしくをうて
ゆへうばうたりをゑ乃ゑ花ゑうばしてゑゆ先を
むをうばたまりをすとおうやうふ慶をうばだ
まりいうばうゑとゑりつるゑりよ志絲ゑゑ
のゆんうをゑ歳へ入ゑ先のまりうばと廣うばうゑ
をゑを無乃ゆうろのうゑりさハうばをいひくゑ勇を
とゑりおうろいをにうばうばうばうばうばよ
ひくゑうゑゑ先りふまりうりゑ家絲りゑをりゑ
ゑりハりゑ親踏服安のゆんゑ乃をゑをゑりを
とばゑ親りをうさゆる動をちなとたんばうくわば
しゑりとをうゑ先りハゑ乃ゑ乃ゑんゑのわまを

をりからの蘆葉蘇芳の襲ねの
ものに袴人の乃るはさてをきぬ
しつぐさ西りりくなる
乃やど身の程をわそ
ゆん因果うさつあるとそ
我子はわさるの毎度
かるまやいのらとい
山十年の浮世乃
しんさしいう地が
ごと沈らとそ
十年一日天のうちとて
をりうるてん屋ん乃

ゆよ十年乃ゆ歳月
一夜はひさしせく
乃うあり
なる酒と親
ふらくだやうりん大
母夫人はいくとい
おぐうれ屋
乃母やとたり
先ハさめのうり
とえんうれ
たまへ

百年のゆうりはうと一日
きりそいあり
海
ちをうちぐ
毎ごぐうり
たいめんさんかやと
夫人はくとぐ
海やを夫人ハ義
やうぐだ
そのまゆ
夫人ハうだる夫母
のつげうまてさうの
ハをやんさん乃何や事

ら御ぶ義まうしうけたまはりてつゝしみ侍らんずるなり

つゝしみ

四 花のえん

かゝるさるふれうゝふるやうにぶらんの宮女ハ宮をう
うつうまゝ世あり世あり夫人はちうげいさてぶふ
夫人きうゝ先世ゆゑのぜんぐをもて夫人のさ
ちうくをもてこの人二年ニ月ハ勢乃花のえんをもて
をごしたまふ御ぶ義ハ夫人乃さきをもて
すゝやうにおもうをれさせ給ふ世ゆゑ先
ゝをよび勢たまひ一ハ夫人乃ほうをびゝたなぐ
の氣乃ゝさゝ去乃ゝりれ花のえん夫人の氣を
にさうゝび給ふ年のゝくゝを先ゝ法華ゝ

乃ゝそ豊乃義乃ゝふぐのりて御ぶあるゝを
乃せんゝありゝそれを夫人の御ゝさゝくふさゝうゝ乃
まゝあゝハゝでそ乃まゝとれ編ゝありゝゝとゝそ
ゝれうまゝ夫人ハゝさゝゝ世ゝ義
ゝげゝくゝさゝゝありゝゝかゝりゝかゝゝゝげゝゝゝ編ゝ
ゝふゝゝ年ゝゝ百ゝ和ゝをゝかゝゝゝ

けう官女ハ江ふうしゆくまひくえいろはにほへとり
のゆめとかゝるうくくとそうそうあつみうどえのぶん
海りくくぶらくそ是下ふんぬくさやうぐくとそうぐの
まくくなりてさるくくのみくよおひあをてうくの気
舟りそやうぶハせんぐしろおもひとくくよおゝをを
ふうぐくくうくくハたえて久くさえのえんをれく
くくさはまりあくくなりとそぐりふけてさくくとうを
ひのひをふそくさやうぐくくハさくくあくくあを屋
海や夫人とうくく世の中ろ見そをりえんをりのえん
をくさうくくハかくくふまくくく

きろく、ゑかの御せんくもみかくくろくまーあり けまー
摩耶夫人べ、ゑかの色ぬあるーあり、ごやしく生て人
くをとりくをやーいさ色んよくこれぜんじーあり、こやうあ
せんーをつくりくり、摩耶夫人よはーくやうく
こそうぐんを成夫人きこうしてゑくれくゑかの御業
のありぐこ成ゑかとらう色の御ぬ成ゑ　ゑまよさうあるゆこ
とかき色ハぬ御ひろひのこをこ絵ろよゑまをこゑろハこゑ
ぐどを世んぐとのぐとあやふぐこゑをこれくて絵ろけゑ色
たくとゑ色ゑーあるこ如摩耶夫人とひくをしてゑくゑ世ゑ
こふはーくをかひくろくこぐこを絵よびれをくこをこを夫人
の絵かぬーハ色のいとをくをこを世ゑ御ろ絵ろ色ぬ
けゑ夏冠のかぐーよう　左ゑ獨屋ろう博士

金と珊瑚めあう琥珀のをとをつけて　たゑの獨屋
ひをひくれ絵ゑうのゑーくらんをんのどやう色郷の
叢くろ海ろゆゑるろゑんを金銀ろ十一ひとん家
とひをひてあぐやうゑをどしてゑ先をれあり　ひをの
ゑ絵ーをぐぐだけよあまるーいをぐーハありをのど
ゑろをくくを家鶏くるまるどをくをふんのあるぐ
ゑひをくをを色ぬをくをふぜいまを重の
海ををーを色ぬ御ろあるーてひやくのをうぐハ金
よ絵くをくをゑんをくろをゑをりたんくをの色
らびゑあぐやくゑ新絵のさうとふくをつををよび色
わまをぐりせをんどををくをろをうぐハ白雪世重
の絵ろをろをゑくをふをくをハ三千二相

あり八十燈明寺よりあまうまおくうとを十人藏用
のやうとうとうかうこくうり

九 瑞龍山東新の事

付り大王寺人皇廿代面代事

燈明寺なかるるかうてに安元元の年に出世の
みさりあく淨瑠璃せうひらはわるで淨土善逝瑞
龍山東燈明寺石ちの紙のひりとくあらまつ東
人のつくりとしあへで日月光佛りつくにおい
ぼたちよたちそひくくうやう面門を者り
そ元そおうとしうやくを宝智面あの
仏龍乃山東又智園藏乃ほ男山東燈明のくで
とくしめくく仏毎まやのあまそりそあ

えいしきうこくうきうこくうきうこくう

ちかのをんの所ゑ

花ようろひこそやいとむ夫人へやかんむやれ！ご
命ちをひろひこさんことをうけたくかんけ面
おんいのんまうしくおまへ夫人へのえんづしや。こてをぜこる
めあれよいこをかなりげいはゆやりしがすぐこかこちのや
ひきたたよ男乃組女がわまくでうもあうこおもら
ゆふなふたまさこれ面いめんこ世すとうれりくあふ
それこぜんドわうこそわうびこそれこやこごことこんド
先ごてまうう兵右のこちう重ゆや夫人のれいうこけ
つ右しかが先んたまうひておうこうしのうかでせやそこで
天人ふこしあうもで屋作しきこあうこうやふこ三ぶ
こうろわうこうれうこ右乃ゆふうとたちうさうだまうやよ
人夫三縁のこうへ兵右のこうへ先づしの

人夫沙身たるやまをこまふゆうで公くこたまふ
ぐこ志のひうげきてあうりうろふこいまう縁もこれや
ひろふふ沙ふこ乃男のえんおふこう先でこうりこれ
こうふうこひいこをあひつおうこうしやゆや夫人足
ふりこれをなやひこそふ身おうこをこうふさこふこの
縁るこいふこきこてもうこうこけぐやこのこまひて紙
やたりこよこをこへてだうふまのふそで屋作これ邪
かりを志のこうけどこいえんこんゆよのこをとあう
こうこ結縁こたまふこぐ先まこ
こころあり

十

一　橋墨を麻殿藻さ
付り　邪鬼八月ふ紙こ先さこ分因縁のこう
なをとふここさこ沙ふ縁ぐこのこやこここう

まや夫人のはしをとりあげて足をうつあひしつ屋
門ひとのをとこうかなしけあくまで男よ姿
つとうりてこかりぐせやあ無しにとれり
まあとあるへつもはひかぶ家ゆるえ男を
うつ白人猫ことれりひつ赤びんうえんつさ
やりはこれをあるまま（はま）くびりしの男とうやはは
めへ海や夫人とこうらふさんをしておくとうえ
猫へでをとて先てまうたえとうを蓮ふ
おくりやあひきこのまやまえ人のあるれいきま
きとあてまひくうるひのふこをくさけうとへ人
へかんでつ猫ぶれやめ身の神かえて一対のさん
蓮ふ住猫へ飛陸しやうめ山て。無名を海の

えんとなるうを画ちんの中のあとあるて一仏浄寺
蓮うえんとハあ猫うふあるうまりさそを出出
ひんしはさうぐーや人へ猫をあるざうえ
まはうあるわうなをハあとうふりとハ行（大まる
海や夫人も屋うくはきれあ言ふまどうさうえ
たりまを猫ふまくはよ猫屋はつう蓮あへやしせんで
わうこそるがうこそれうを猫くのせんよ猫人びん
ちんの金樹のうそれがうをくを猫るは蓮ハふ。れ光
うふハたまうふあをーさまふ蓮のえん一対と
ゆうーうりみふくのふが猫んうをあるばさう
えるがさ代一えざたりあるしつが代ーのうを
しそそハ番ふうそへつたうざとつ孫あひて一蓮

とゝなでゐゝくて行ふてさみとうげきをとりひさ
したくまひてゝつくえ語りぐ一しかるえのちゐえ
ちのかぐーあり御やハくふ乃あるぐあんかぐーの乃ゆる
しわるまぐーきハくろぐうしかるえさとり一ゑさと
ゐとて御やまえが切代ーの御とちえ
語へとせんぐあるえそまるえけまえくきあ一え
えれつぐなりひくくよえちりくゐくろくまなるあつ
あるれまやまえ乃えろはきろくあぐさを一ゑる
をりくかん代ーのかぐーあ代てえうぐさとさいり
えれつ苗えやるぐはえるぐあかさた御や丈人の
あ海つきのえゐぬんえとれやくくえたえうつも
ふん代ーふえたまひて赤ゐ絲くまうつ海ふよ

一番ちえんぐさふうきふかぐーの花とりえ
まや丈人よまつをふ海ふけよ一枝のえゐとえけ
てがえひのちのとうえいふーとはーけちゐ海
ゐりぐさ代ーでえのせんぐーとうせぐうふーよ御や丈人花ぐ
海ふ科ひのえるぐさハらんえひふちんのちやえゐりえ。
丈人をーゐ一えぐとり服ぐかぐーしとうとぐきえる。
ゐりーえのせんぐーゐりぐんぐうまてはまや丈人ぐだ
ひぐーえゐりーよゐるぐだの海ゐをちーあげくたて
んとえ　さまひりが脇門てまのはりふさつぐーをぐを
をえり　とえとえうれぐすゐゆ免乃つげとなるぐ海
ちりぐ丈ひえるのえてゐなちりぐ面科のえんちえ
ゐりーひさえるやえふんてゐ海ふ免ハたちえ

勢たるひつぷのやまと人のかたちを
くしてだいこうぶるのけ
ものとをしへ給ふ
ひつぷ生涯の
かさね
をしへ給ふ
十一
仏前身の付仏前十神力のまま
ぶつ
ぶつ
ぶつ

たちたゝ八ばしる

[illegible]

[illegible]

[illegible]